

5), Procion Yellow HA (C. I. Reactive Yellow 3) の 3 種の染料を用いてナイロンタフタの染色を行なった。染着量の定量は残浴比色によって行ない、染料濃度(対繊維 1~5%), 染色温度(20~100°C), 染色時間(吸収・固着とも 10~120 分), pH(1.5~12.6)などの影響について実験した。さらに、染色物の洗たく堅ろう度もしらべた。

3. ①酸染色(pH 3.5 以下)で、80°C 以上の温度で染色すると、高い染着率が得られる。②染料濃度については Procion Yellow HA 以外の染料は、対繊維 3% 以上用いても、染着量は殆んど増加しない。③時間の影響については、酸染色では時間とともに染着量が増すが、モメンの染色のように中性浴染色、固着を行なうと、固着過程ではかえって染着量が減少し、次第に染料が脱着される。④Procion Brilliant Red H7B, Blue HGR は染色性の傾向が似ているが、同じ条件で染色した場合、後者の方が染着率が高い。⑤Procion Yellow HA は他の二染料と染色性の異なる点が多く、染着率が最も高い。⑥最適染色法で染色したものの洗たく堅ろう度は、変退色、汚染とも 5 級である。

B-43 反応染料によるナイロンの染色

東京学芸大 岩崎 芳枝

1. 反応染料のナイロンに対する最適染色法を見出すため、各種の染色条件で染色し、さらに染色堅ろう度について実験する。

2. Procion Brilliant Red H7B(C. I. Reactive Red 4), Procion Brilliant Blue HGR(C. I. Reactive Blue